令和２年度　小・中学校における環境教育の取組み

総合的な学習の時間（第4学年）

**テーマ〖STOP地球温暖化～私たちにできること～〗**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　茨木市立清溪小学校

≪学習のねらい≫

　・地球温暖化などの環境問題に気づくことができる。

　・私たちにできることは何か考えることができる。

≪学習の流れ≫

　実施時期　　１１月

　　2日間にわたり、茨木市環境教育ボランティアの方に来ていただき、環境問題について知り、自分たちができることを考える機会を持った。

≪指導のポイント≫

日ごろから、環境問題について取り組んでおられる方に、現在、地球規模で起こっている問題や、解決に向けて今すべきことをお話しいただき、環境問題は避けることのできない全人類の課題であることを実感できるような取り組みを行う。

≪活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー　等≫

　　茨木市環境教育ボランティアの方、2名に来ていただき、出前授業を行っていただいた。

1. 「地球にやさしい生活をしよう！」

SDGｓが国際連合で2015年に採択され、2030年までに目指す「国際目標」であるということや、１７の目標の1つ「気候変動に具体的な対策を」の「地球温暖化の仕組み」に関わって「ごみはどこへ行くのか」「茨木市のごみはどれくらいか」などをクイズを交えて解説してもらった。児童には少し難しい内容ではあったが、「ごみを減らすことがどれだけ大切か」ということや、「自分達で取り組むべきことは何であるか」を考える機会となった。

1. 「地球温暖化と絶滅していく動物たち」

「地球温暖化」が進んでいることで、多くの動物が絶滅危惧種であることを知る。毎日の生活を「省エネ」にすることで、温暖化を遅らせ、絶滅の危機のある動物を守ることができることを学んだ。絵本「シロクマのナヌー」の読み聞かせや、地球儀を使って北極・南極・日本の位置を確認するなど、子どもたちの興味関心をそそる内容であった。

≪成果≫

　・子どもたちの感想には、「百年たつと地球はどうなっているのか知りたい」「雷を発電に応用することはできないのか」といった疑問や提案が出てきた。また、「買い物の際にエコバックを持参する」「自分にできることを一つずつしていこう」といった身近なことから環境問題を解決する行動をしていく決意も出た。子どもたちにとっては、環境問題を身近にとらえる機会となった。

